

令和元年 7 月 1 8 日

令和元年度農地中間管理事業現地研修会

事例報告

あきた農地利用最適化推進 1 ・ 2 ・ 3 運動の
取組について

仙北市農業委員会事務局

事務局長 浅利 喜一郎

仙北市の概要

人口 26,097人

(令和元年6月末日時点)

※高齢化が急速に進行し、「2040年」には人口が1万6千人弱まで減少するという統計データも・・・

耕地面積 5,470ha

中山間地域が大部分で農地の集積が進みにくい

近年、農家戸数が急速に減少している



離農・規模縮小の方は機構へ農地を預ける

平成17年9月20日に
田沢湖町・角館町・西木村が合併して誕生

エリアから選ぶ





角館の桧木内堤と桜（ソメイヨシノ）



角館の武家屋敷と桜（シダレザクラ）



水沢温泉郷・乳頭温泉郷・田沢湖高原
温泉郷・玉川温泉など



海外から農家民宿への研修体験

仙北市農業委員会の概要

新制度移行 平成29年12月20日～

農業委員 17名

農地利用最適化推進委員 20名

事務局の体制 (仙北市役所 西木舎)

事務局長

農地転用・遊休農地係

農業者年金・庶務係

農地賃借・売買係

4名体制

合同会議の様子



農地中間管理事業は

○事務局から1名

○市農業振興課から1名

の合計2名で対応

あきた農地利用最適化推進 1・2・3 運動とは？

新体制となった農業委員・農地利用最適化推進委員によるアンケート調査をはじめ、農地の出し手と受け手のマッチングを推進する運動である

実施主体：農業委員会 推進主体：（一社）秋田県農業会議

○具体的な内容は？

ステップ1・・・現状の「人・農地プラン」の確認・把握、農家へのアンケート調査の実施

ステップ2・・・「人・農地プラン」の見直し

ステップ3・・・農地中間管理事業を活用した農地の出し手・受け手とのマッチング

○活動（運動）の目標は？

3年間（平成29年度から令和元年度）で市「人・農地プラン」を委員及び推進委員が関与して見直し、そのプランを基に農地のマッチングを行う体制が構築されること

「人・農地プラン」の概要について ※東北農政局HPより抜粋

1 人・農地プランは、人と農地の問題を解決するための「未来の設計図」です。

☆ 集落・地域が抱える「人と農地の問題解決」のため、集落・地域において話し合ってください、次のことを決めていただきます。

《地域における話し合い》

- 今後の中心となる経営体(個人、法人、集落営農)はどこか
- 地域の担い手は十分確保されているか
- 将来の農地利用のあり方
- 農地中間管理機構の活用方針
- 近い将来の農地の出し手の状況(いつ頃、どのくらい出す意向か)
- 中心となる経営体とそれ以外の農業者(兼業農家、自給的農家)の役割分担を踏まえた地域農業のあり方(生産品目、経営の複合化、6次産業化)

《集落における話し合いにあたって》

- 人・農地プランの範囲は、複数集落や学区等のエリアが基本ですが、地域の実情を踏まえて旧市町村単位や集落単位など適切なエリアに見直して下さい。
- 新規就農者や新規参入者(農業法人、企業等)も話し合いから参加できるよう、広報、ホームページ等を通じてできるだけ幅広く周知しましょう。

2 人・農地プランには、様々なメリット措置があります。

☆ 人・農地プランに位置付けられると、

- 農業次世代人材投資事業(経営開始型) → 原則45歳未満の認定新規就農者で独立・自営就農する方(※準備型(研修中)は、人・農地プランと関係なく給付します。)
- スーパーL資金の当初5年間無利子化 → 認定農業者
- 経営体育成支援事業 → 適切な人・農地プラン作成地区で経営改善を目指す中心経営体等の方

☆ 農地中間管理機構に農地を貸し付けると、

- 経営転換協力金・耕作放棄地協力金 → 農地を貸し付ける方
- 地域集積協力金 → 地域で一定割合以上の面積をまとめて貸し付ける地域

といった支援を受けることができます。

3 人・農地プランは、定期的に見直してください。

☆ プランを決めても、定期的(1年に1回)に見直してください。

- 一年経てば、状況は変わります。その状況を踏まえて、地域の将来展望が描けるよう見直しをしましょう。



仙北市の１・２・３運動の取組について

ステップ１

①現状の「人・農地プラン」の確認

アンケート調査の概要確認 → 平成30年３月８日農業委員会合同会議にて委員・推進委員が確認

- ・委員の狙い → 地元の中心経営体を把握すること
- ・事務局の狙い → 委員同士の顔合わせ、地域間の連携確認

②農家へアンケート調査の実施・回収 →平成３０年３月末に郵送

市内在住で農地10a以上所有する世帯（計2,752通）

回収期間は 平成３０年４月 ～ ８月末 まで



１、返信用封筒を使わず、農業委員と最適化推進委員が直接訪問すること！

２、アンケート回収で活動（訪問）する際は、名刺を持っていくこと！

- ・事務局の狙い → 新体制後、農家の方々と農業委員会の顔合わせの貴重な機会

アンケート調査の内容について

(別紙様式2)

地域農業の将来(人と農地の問題)に関する調査について

●●●●農業委員会

～●●●●の農業・農地に関して、あなたのお考えをお聞かせください～

- ●●●●では、集落・地域の皆さんに地域農業の将来像について考えていただくために、平成●●年●月にアンケート調査を実施し、今後の地域農業の振興に必要となる「人・農地プラン」を作成しました。
- 「人・農地プラン」とは、集落・地域が抱える人と農地の問題を解決するための地域計画で、今回は、その見直しを行う参考資料とするため、改めて、皆さんの自宅の農業・農地の現状や将来の農業経営について、お考えをお聞かせ願います。記入にあたっては、農業経営主（世帯主）となる方だけでなく、そのご家族の皆さんで相談して回答してください。
- なお、本アンケート調査は、●●●●農業委員会が「地域の未来を描く！あきた農地利用最適化推進」・2・3運動」として実施するものであり、「人・農地プラン」を見直し、地域の農業・農地の将来の方向性を明確にするとともに、「農地中間管理事業」の活用等による農地の利用集積・集約化を促進することを目的としています。
- 本調査で知り得た個人情報については、原則、●●●●、●●●●農業委員会、秋田県、(公社)秋田県農業公社、(一社)秋田県農業会議の「人・農地プラン」や「農地中間管理事業」の関連業務にのみ利用することとし、目的外利用や第三者への提供は行いません。

ご多用のところ誠に恐縮ですが、ご協力を賜りますようお願い申し上げます

経営主/世帯主についての質問（必要事項を記入し、□に✓を入れてください。）

氏 名			
年 齢	☐ 30代以下	☐ 40代	☐ 50代
	☐ 60代	☐ 70代	☐ 80代以上
住 所			
農業経営の種類	☐ 個人経営【 ☐ 専業、 ☐ 兼業】 ☐ 法人経営【 ☐ 代表、 ☐ 構成員】 ☐ 集落営農（法人化されていないもの） ☐ 耕作していない ☐ 貸している・作業を委託、 ☐ 自ら保全管理		
農地の面積	所有農地： _____ ha 借入農地： _____ ha 貸付農地： _____ ha } 合計： _____ ha		
主な作物	☐ 水稲 ☐ 大豆 ☐ 野菜 ☐ 花き ☐ 果樹 ☐ その他（ ）		
認定農業者等の認定状況	☐ 認定農業者 ☐ 認定新規就農者 ☐ 該当無し ☐ 分からない		
人・農地プラン掲載状況	☐ 中心経営体として位置づけ ☐ 掲載無し ☐ 分からない		

記入者についての質問（□に✓を入れてください。）

経営主/世帯主との続柄	☐ 本人	☐ 配偶者	☐ 親
	☐ 子	☐ 子の配偶者	☐ その他
性 別	☐ 男性	☐ 女性	
年 齢	☐ 30代以下	☐ 40代	☐ 50代
	☐ 60代	☐ 70代	☐ 80代以上

あなたの地区の農業についての質問

Q 1 あなたの地区の農業（人と農地）は 10 年後どのようなになっていると思いますか。

該当欄に「○」を記入してください。（複数回答可）

☐	1. 特に問題はなく現在と同じような農業が営まれている
☐	2. 農地が利用されず耕作放棄地が増加している
☐	3. 地域を支える安定した担い手（個人・法人・集落営農）がいない
☐	4. 若い農業者が減少し、農家の高齢化が深刻化している
☐	5. 条件が良い農地は集積が進み、担い手（法人・個人・集落営農）が活躍している
☐	6. 農地の基盤整備が進み、担い手（法人・個人・集落営農）による大規模な経営が行われている
☐	7. その他（ ）

Q 2 あなたの地区には、地域農業の中心となる担い手がありますか。

該当欄に「○」を記入してください。また、□に✓を入れてください。

☐	1. いる（ ☐ 個人、 ☐ 法人、 ☐ 集落営農） 一差し支えなければ、その氏名（法人名）を記入してください。 氏名（法人名）：_____
☐	2. いない
☐	3. 現在はいるが、今後は、いなくなると思う （ ☐ 個人、 ☐ 法人、 ☐ 集落営農） 一差し支えなければ、その氏名（法人名）を記入してください。 氏名（法人名）：_____

Q 3 あなたの地区の地域農業にとって必要な支援はどのような分野ですか。

該当欄に「○」を記入してください。（複数回答可）

☐	1. コメ以外の園芸作物の振興
☐	2. 6 次化（加工・販売等）
☐	3. 担い手の育成（資金・設備・農地の利用集積・集約化等）
☐	4. 基盤整備（農地の大区画化・汎用化・用排水路の整備等）
☐	5. 必要な支援はない（現状維持でよい）
☐	6. その他（ ）

Q 4 あなたの地区の農業（人と農地）が続いていくためには、今後どのようなことが重要だと思いますか。

該当欄に「○」を記入してください。（複数回答可）

☐	1. 現在、地域農業の中心となっている担い手が成長・発展すること
☐	2. 新たな法人等の立ち上げや新規参入者の促進が実現すること
☐	3. 基盤整備等により耕作条件の改善が図られること
☐	4. 分散している農地の利用集積・集約化を行い、効率的な農作業が行えるようになること
☐	5. 特に重要なことはない
☐	6. その他（ ）

→ 上記で、1 又は 2 と答えた方は、特に、重視する担い手に「○」を記入してください。

☐	1. 集落・地域内の個人
☐	2. 集落・地域内の法人
☐	3. 集落営農
☐	4. 集落・地域外の経営体

あなた自身の農業経営についての質問

Q5 あなた自身の経営を今後（10年後）どうしていくつもりですか。

該当欄に「○」を記入してください。

☐	1. 農地の受け手となり、規模を拡大したい
☐	2. 現在の規模を維持したい
☐	3. 規模を縮小したい
☐	4. 近い将来、農業をやめたい → 具体的な時期：____年後
☐	5. 既に農地を貸しており、今後も農業は行わない
☐	6. その他（ ）

▶ 上記で、1～2と答えた方は、Q6とQ10をお答えください

▶ 3～5と答えた方は、Q7～Q10をお答えください。

Q6 後継者は誰ですか。

該当欄に「○」を記入してください。

☐	1. 経営主の家族・親せき
☐	2. 集落営農組織・法人
☐	3. 後継者の目途はついていない
☐	4. その他（ ）

Q10へ進んでください。

Q7 農地を貸付ける又は売り渡す場合に希望する相手は誰ですか。

該当欄に「○」を記入してください。

☐	1. 経営主の家族・親せき
☐	2. 上記以外の近隣の農家・親しく付き合いのある農家
☐	3. 見当がつかない・特に希望はなく誰でもよい
☐	4. その他（ ）

Q8 貸付等を希望する農地の面積はいくらですか。

該当欄に数字を記入してください。

面 積	貸 付： _____ ha	} 合計： _____ ha
	作業委託： _____ ha	
	売 渡： _____ ha	
貸付等の年度	平成 _____ 年度	

Q9 農業をリタイヤした（している）場合、どのように地域農業と関わりますか。

該当欄に「○」を記入してください。

☐	1. 地域の農地等の保全管理に協力する
☐	2. 受け手となった農家に任せる（関与しない）
☐	3. その他（ ）

Q10 農地中間管理事業を知っていますか？

該当欄に「○」を記入してください。

☐	1. 知っており、利用したい
☐	2. 知っているが、興味はない
☐	3. 知らない
☐	4. その他（ ）

▶ 上記で、1と答えた方は、貸付又は借受を希望する面積等を記入してください。

面 積	貸付： _____ ha	借受： _____ ha
貸付等の年度	平成 _____ 年度	

ご協力、ありがとうございました。

仙北市の１・２・３運動の取組について

○アンケート調査を集計すると分かることは何か

- ・ 農業者一人ひとりが、地域の農業をどのように捉えているのか？
- ・ 地域毎の担い手は誰なのか、今後誰に担ってもらいたいのか？
- ・ 自分自身の農業経営を将来どのようにしていきたいのか？



などなど



今後の農地集積・集約化及びほ場整備実施のための
有力な情報（材料）になる！

仙北市の１・２・３運動の取組について

○アンケート調査の結果 → 全体の回収率は５７％、地域によって差が大きいことが分かる

集計は平成３０年９月 ～ １１月末まで行われた（ステップ１ 終了）

地域農業の将来(人と農地の問題)に関する調査について

平成30年11月19日 現在

地区名	農業委員	推進委員	対象者数	回収者数	回収率	Q8 貸付等を希望する農地の面積				Q10 農地中間管理事業を知らずか			備考
						貸付	作業委託	売却	年度	貸付	借受	年度	
角館町内			130	65	50.0%	11	3	3	5 (3)	6	0	4 (2)	
磐然			102	69	67.6%	14	1	1	2 0	4	7	4 0	
白岩・広久内・園田			244	143	58.6%	28	8	7	13 (6)	12	9	9 (2)	
西長野			137	121	88.3%	16	3	2	4 (3)	8	4	3 (1)	
八割・下延			119	109	91.6%	26	9	5	11 (2)	15	7	11 (4)	
山谷川崎・川原			195	107	54.9%	28	3	1	10 (4)	12	9	10 (1)	
角館地区計			927	614	66.2%	121	27	19	45 (18)	57	36	41 (10)	
梅沢			120	91	75.8%	27	4	2	11 (4)	14	7	10 (3)	
田沢			118	15	12.7%	5	0	2	3 (1)	1	0	0 0	
卒田			132	103	78.0%	29	2	2	11 (3)	13	3	6 (1)	
神代			174	142	81.6%	26	4	5	13 (3)	13	7	8 (2)	
生保内			292	73	25.0%	21	3	5	6 (3)	8	2	6 (1)	
刺巻			29	25	86.2%	8	0	0	3 (1)	5	0	2 (1)	
湯			29	8	27.6%	1	0	0	0 0	2	0	1 (1)	
小松・角館東前郷			144	54	37.5%	9	2	1	3 0	12	4	7 0	
岡崎			76	68	89.5%	17	3	1	5 0	3	2	3 0	
田沢湖地区計			1,114	579	52.0%	143	18	18	55 (15)	71	25	43 (9)	
上桧木内・桧木内			298	168	56.4%	37	7	5	12 (7)	17	1	14 (6)	
西明寺・小山田			162	51	31.5%	9	2	1	6 0	3	1	2 0	
門屋・上荒井			132	98	74.2%	18	4	2	2 0	7	4	2 0	
小淵野・西荒井			119	59	49.6%	12	2	0	10 (2)	6	1	5 (1)	
西木地区計			711	376	52.9%	74	15	8	30 (9)	33	7	23 (7)	
仙北市計			2,752	1,569	57.0%	338	60	45	130 (42)	161	68	107 (26)	

※調査結果抜粋

仙北市の１・２・３運動の取組について

○ステップ２ 「人・農地プラン」の見直し → ここからは市長部局との連携が不可欠！

平成３０年１２月 農業委員会の合同会議にてアンケート集計結果から、**委員自ら**で

「今すぐに農地を貸したい！、売りたい！」の回答を集計して**【貸し手希望リスト】**を、

「今後、〇〇ha規模拡大したい！」の回答を集計して**【借り手希望リスト】**をそれぞれ作成した。

当運動における「人・農地プラン」の見直しにおいて、

委員・推進委員が関与して という部分が重要である。



したがって

①市「人・農地プラン」検討会に委員・推進委員が出席し、意見を述べる体制作り
※市長部局と連携

②２つの希望リストを基に、農地のあっせん業務及び**担い手の掘り起こし**を行う
※あっせんの際は、農地中間管理事業の活用を促す！

仙北市の１・２・３運動の取組について

- ・平成31年2月15日 市「人・農地プラン」検討会へ 農業委員会会長含む3名が出席。

アンケート調査の結果を報告、今後のプラン見直しへの意見交換を行った。

- ・ 【借り手希望リスト】を基に委員があっせんした結果、2件（個人）の農業者を中心経営体として市「人・農地プラン」へ追加した。 → 運動の成果が見えてきた

○ステップ3 更なる農地の集積・集約化に向けて

今後は、農地の出し手・受け手とのマッチングや相談・調整活動を加速化させる。

その手段として、人・農地プランの見直し・農地中間管理事業・ほ場整備事業がある。

→ **農業公社・土地改良区・JA等の関係機関との連携が必要に！**

1・2・3運動と農地利用最適化交付金について

平成30年度 農地利用最適化交付金実績

活動実績	1,900,000円
成果実績	13,813,000円
合 計	15,713,000円

上乗せ報酬に係る委員1人当たりの平均交付額

農業委員 328千円

最適化推進委員 284千円

仙北市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償等に関する条例

別表(第2条関係)

職名		報酬額	
(略)			
農業委員会の 委員	会長	月額	50,000 円
	会長の職務を代理する委員		40,000 円
	委員		37,000 円
農地利用最適化推進委員		月額	37,000 円
(略)			

備考

- 1 農業委員会の委員の会長、会長の職務を代理する委員、委員及び農地利用最適化推進委員には、この表の規定にかかわらず、その実績に応じ国の農地利用最適化交付金の範囲内において市長が定める基準により算定した額を別に支給することができる。この場合において、当該額は、第4条の規定にかかわらず、当該会計年度の末日までに支給するものとする。

仙北市のほ場整備事業実施状況について

○平成30年度から始まった「農地中間管理機構関連ほ場整備事業」

仙北市では、^{や つ ・ か ま た り}【 八津・鎌足地区 】 が既に採択済

農地中間管理機構関連ほ場整備事業 八津鎌足地区

位置と概要



地域の特色



かたくりの花

“清流” 桧木内川の鮎

“日本一大きな栗”
西明寺栗

鎌足和紙漉き



農家民宿・農業体験(仙北市農山村体験推進協議会)

- ・四季を通して様々な伝統行事等があり、観光客で賑わっている。
- ・かたくり館を地域の中心として、加工・直売や体験等を行っている。
- ・この集客力を生かして、農産物の販売促進に繋げていきたい。



かたくり館